

## Jonah: God's Grace in The Deep | Responding to God's Word (Jonah 3: 1-10)

ヨナ: 深いところでの神の恵み | 神のみことばに応答すること(ヨナ書3:1-10)

イントロ: 先週は、ヨナが魚の腹の中から苦悩して神に泣きつく姿を見ました。そして、主が大きな魚に語りかけると、魚は奇跡的にヨナを乾いた土地に吐き出したのでした。ヨナは今、従う準備ができていますでしょうか。なぜなら、1章で初めて神の言葉が来たとき、ヨナは逃げてしまったからです。そして、この2節には、「再びヨナに次のような主のことばがあった。」とあります。では今日、私たちは神の言葉にどのように応答するのでしょうか。

この箇所から私たちは次のことを学びます。a) 応答を要求する神のみことば。b) 神の正義をもたらす神のみことば。c) 悔い改めに導く神の恵み。

### a) 応答を要求する神のみことば

1 再びヨナに次のような主のことばがあった。2 「立って、あの大きなニネベに行き、わたしがあなたに告げることばを伝えよ。」3 ヨナは、主のことばのとおり、立ってニネベに行った。ニネベは、行き巡るのに三日かかるほどの非常に大きな町であった。

さて、神の言葉が初めてヨナのところに来た時、ヨナは逃げてしまいました。しかし、ヨナは2章で、神から逃げることについての難しい教訓を得ただけでした。そこで3節には、「再びヨナに次のような主のことばがあった。」とあります。神のことばが来たとき、あなたはどうしますか？ どのように聞かかが非常に重要です。選択的な聞き方というのは、従順さを失くしたり、避けたり、遅らせたりするものです。反応が遅れることは、不従順です。もう一度言いますが、反応が遅れることは、不従順です。なぜなら、神のことばは応答を要求しているからです。ここには、「再びヨナに次のような主のことばがあった。」とあります。ヨナは1章2節以来、主からのことばを聞いていなかったことを思い出してください。

神はヨナにこういった。「立って、あの大きなニネベに行き、わたしがあなたに告げることばを伝えよ。」神が何を言っているか分かりますか？ 「立ち上がれ」と言っているのです。それは警戒を呼びかけ、立ち上がり、行動するようにということです。彼は「立って、あの大きなニネベに行き、わたしがあなたに告げることばを伝えよ。」といます。ニネベに対して呼びかけることが、どれほど威圧的であるか想像できるでしょうか？ ニネベ(現代のイラク)は「あの大きなニネベ」(2節)と呼ばれています。神は1章2節で「彼らの悪

が私の前に現れたからだ」と言われました。この時、ニネベはアッシリアの首都ではなかったのですが、急速にその最も重要な都市になりつつありました。アッシリアがバビロニアに敗れるまで(紀元前612年)ニネベはアッシリアの重要な都市だったのです。イスラエルもユダも、アッシリアの下で非常に厳しい扱いを受けていました。しかし、3節には、ニネベは「非常に大きな町」であるとも書かれています。

質問: あなたは自分の街を気にかけていますか?

どんな偉大な都市にも暗黒面がありますね。偉大な都市には、美しさと壊れやすさがあるのです。あなたは東京に対してどのような態度をとっていますか? 単に個人的な満足のためにこの都市を利用し、次の都市に移動するのでしょうか? それとも、この街の人たちを純粋に愛していますか? 人々を愛する代わりに、その都市の利点を愛するのは簡単なことですよ? ヨナは実はニネベの町を軽蔑していることを思い出してください(4章にあるように)。しかし、神はヨナが軽蔑している街にヨナを遣わされます。神は、「わたしがあなたに告げることばを伝えよ。」と言われます。ヨナが自分の考えや言葉を話したり、その街の好き嫌いを話したりすることではないことに注目してください。ヨナは、神が語られる「ことば」を呼びかけるのであって、それ以上でも以下でもないのです。そして、3節に「ヨナは、主のことばのとおり、立ってニネベに行った。」と書かれています。ヨナが今回、いかに逃げなかったかわかりますか? 最初に神の言葉が来た時、ヨナは逃げ、それは彼にとって良い結果ではありませんでした。だから神様が"立ち上がれ"と言うとヨナは"立ち上がった"のです。ヨナは従い、ニネベに行きました。「主のことばのとおり。」これが従順の核心です! 私たちの教会では、なぜバイブルスタディをするのでしょうか? 神のことばを学ぶ目的は何でしょうか? それは、また次のバイブルスタディで話す時に、もっと不従順になるような、より多くの情報を集めるために話すことですか? いいえ、そうではありません。神がヨナに「ニネベに行きなさい」(2節)と命じられたとき、ヨナは「歴史的背景を議論しよう」などと言いましたか。

「ヘブライ語では何と言うのでしょうか?

神さまの言わんとすることはわかります。

でも、どうやって?

文字通り、行けというのですか?

私は(行かずに)ニネベのために祈ることができます。

なぜなら私は本業があるからです。

本当に忙しくて時間がないのです。

ごめんなさい。」

違います。「行け」は命令です。選択肢ではありません。だからヨナは「立ち上がり」ました。ヨナは深い海から救い出されたのです。彼は「救いは主のものです」(2:9)と言って主に感謝しました。従順の純心さには美しさがあります。従順の心は「私は主のしもべですから、おことばどおりになりますように」(ルカ1:38)と言います。いいですか、ヨナのメッセージは彼のメッセージではありません。神のメッセージなのです。だからヨナは「主のことばに従って」行ったのです。

次はこれについて見ていきます。

## b) 神の正義をもたらす神のみことば

ヨナはその町に入って、まず一日目の道のりを歩き回って叫び、「あと四十日すると、ニネベは滅ぼされる」と言った。

そこで、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者から低い者まで荒布を着た。このことがニネベの王の耳に入ると、彼は王座から立って、王服を脱ぎ、荒布をまとい、灰の中にすわった。

4節にあるヨナを通しての神のメッセージに注目してください。「あと四十日すると、ニネベは滅ぼされる」です。それは短くてシンプルでした。しかし、それは大声ではっきりとしたものでした。ヘブライ人であるヨナは、アッシリアの都市ニネベ(イスラエルの敵)が好きではありませんでした。だから、ヨナは神の怒りについて説教することがとても嬉しかったのです。しかし、涙を流しながら説教したわけではありませんでした。彼は、「あと四十日すると、ニネベは滅ぼされる」と言っています。彼はおそらく、「せいぜい頑張って！」と思っていたのでしょ。そして「40日」というのは、実は警告であったことに気づいてください。それは、神の裁きが来る前に、人々が自分たちのやり方を考えるための猶予期間だったのです。そして、その結果はどうなったのでしょうか？ 5節に「ニネベの人々は神を信じた」とあります。これはヨナの期待したことではありませんでした。ヨナは恵みと赦しではなく、裁きを説いたのです。しかし、人々は悔い改め、断食しました。彼らは、自分たちが神の裁きに値することを知っていました。しかし、ここには他のものがあります。5節には「断食を呼びかけ、身分の高い者から低い者まで荒布を着た。」とも書かれています。これを見て、分かりますか？ ヨナの説教は、社会で最も力のある者から最も力のない者まで届いたのです。「身分の高い者から低い者まで」と書いてあります。その街には様々な不正義があったことを忘れないでください。ナホムの預言は少なくとも100年後のものですが、ナホムはアッシリアが他の国々を虐待し(ナ3:1-4)、ひどく暴力的で(ナ2:11-12)、ヤハウエにさえ反対していたことを示しています(ナ1:9-11、14)。最も力のある者が最も力のない者を抑圧する、などのことが起こっている都市でした。

しかし、5節によるとヨナの神の裁きの言葉は「身分の高い者から低い者まで」届いたとあります。それは身分の高い者から低い者までをへりくだらせたのです。なぜ、このことが重要なのでしょうか。時々、私たちは街の罪や悪が神様のことばよりも力があるかのように話すことがあります。神の裁きを説くことと、不公平を訴えることは一緒に伝えるべきです。どういふことでしょうか？あるクリスチャンは、ただ神の裁きを説き明かすべきだと考え、社会の中で最も貧しい人々のために何もしません。また、貧しい人、ホームレスの人、やもめや孤児など、最も貧しい人たちの世話をすればいいと考える人もいます。だから、神の怒りについて説教しないのです。それは聖書的にアンバランスであり、社会変革は人を救いません。ヨナは神の裁きを声高々に宣べ伝えるために遣わされました。それなのに、彼のメッセージは街の不公平を変え、罪を罰する神様を示したのです。神は正義の神であり、不正を含むすべての罪を喜ばれません。つまり、あなたが自分の職場や近所で不正を見かけたら、沈黙するべきではないということです。しかし、あなたは罪を罰する聖なる神について黙っているべきでもありません。それは威圧的に感じられるかもしれません。しかし神のことばは、身分の高い者から低い者まで変えることができるのです。「身分の高い者から低い者まで」と書いてあります。では、この街で「最も偉大な」「最も裕福な」「最も強力な」人は誰でしょうか？そして、最も低いとされているのは誰でしょうか。ヨナの予想に反して、神のことばは社会階層の上から下までの人々に触れました。

6節に「このことがニネベの王の耳に入ると、彼は王座から立って、王服を脱ぎ、荒布をまとい、灰の中にすわった。」とあります。神のことばが王にさえ届いたのがわかりますか？王は自分の権力の座である「彼は王座から立って」と書いてあります。そして彼は「王服を脱ぎ、荒布をまとい、灰の中にすわった。」それは悔い改めのしるしです。あなたは、神のことばに最も抵抗するのは誰だと思いませんか？相手の立場、権力、地位のために恐れているのでしょうか？この街で、最も低い者、疎外された者、弱い者とされているのは誰ですか？その人たちの外見や態度、においのために、あなたが不快に感じることはありませんか？神のことばは社会的なハシゴをひっくり返したのです。神は社会の悪を抑制するだけではなく、神の恵みは私たちに悔い改めへと導くのです。

最後にこれを見ていきましょう。

### c) 悔い改めに導く神様の恵み。

7. 王と大臣たちの命令によって、次のような布告がニネベに出された。「人も、獣も、牛も、羊もみな、何も味わってはならない。草をはんだり、水を飲ん



だりしてはならない。8. 人も、家畜も、荒布を身にまとい、ひたすら神にお願いし、おのおの悪の道と、暴虐な行いから立ち返れ。9. もしかすると、神が思い直してあわれみ、その燃える怒りをおさめ、私たちは滅びないで済むかもしれない。」10. 神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らを下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった。

王は悔い改めただけでなく、公に発表したことに注目してください。8節で彼は「人も、家畜も、荒布を身にまとい、ひたすら神にお願いし、おのおの悪の道と、暴虐な行いから立ち返れ。」と言っています。王はヨナを殺すこともできました。しかし殺す代わりに「神に力強く呼びかけろ」と言いました。悔い改めとは神に立ち返ることです。それは祈りの中で神に呼びかけることです！罪に背を向け、神に立ち返ることです。

8節では、「おのおの悪の道と、暴虐な行いから立ち返れ。」と述べています。いいですか、ニネベは流血と暴力の町でした。日本の犯罪率はかなり低いですが、都市には暗黒面があります。時々、私たちは暗い面を見て、神の恵みをあまりに小さく考えてしまいます。神は社会全体を好転させることができるのだということを忘れてしまうのです。立ち返る(TURN)という言葉が見えますか？ ヘブライ語のsub(shoob)という単語は、悔い改める、戻る、考えを改めるという意味です。この言葉は8-10節に4回出てきます。王は神の恵みについて聞かなかつたにもかかわらず、9節で「もしかすると、神が思い直してあわれみ、その燃える怒りをおさめ、私たちは滅びないで済むかもしれない。」と言いました。彼は「もしかすると、神が思い直してあわれみ」といいます。それは慈悲の希望です！彼らの希望は、神が慈悲を示すかもしれないということです

10節に「神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らを下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった。」とあります。素晴らしいことです！神が「思い直した」とはどういう意味でしょうか？ それは「残念に思う、憐れむ、悔い改める」という意味です。神は私たちのように罪を犯さないで、悔い改めることはありません。しかし、神はすべての意図を知り、見ておられます。

「神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らを下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった。」と書いてあります。裁きの代わりに、神は怒りを和らげ、慈悲を示されるのです。神は私たちの罪によってではなく、ご自分の憐れみと恵みによって私たちを扱われるのです。

神はヨナ(2章)を赦され、今はニネベさえも赦されるのです。神の憐れみは常に無償です。神の恵みは私たちが自分の力で得ることができないものであり、受けるに値しないものなのです。ニネベは、彼らが受けるに値しないものを受けたのです！悔い改めが、恵みに値するものではありません。私たちが悔い改めに導くのは、神の恵みなのです。

ニネベの悔い改めについて、聖書の他のどここの箇所に書いてありますか？  
ルカの福音書11章32節、イエスが周りにいる彼を信じない人々を見てこう言われました。

「ニネベの人々が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。」

アッシリア人は敵であったにもかかわらず、ヨナの説教で悔い改めたのです。そして、イエスは「しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。」と言われた。イエスはヨナよりはるかに偉大な方です。しかし、彼の民は耳を傾けず、信じようとしませんでした。そこで彼は言います。「ニネベは審判の日に立ち上がり、この世代を非難するだろう。」なぜなら、ニネベはヨナの説教で悔い改めたからです。イエスはヨナよりどのように偉大なのでしょうか？神から逃げたヨナとは違って、イエスは神に完全に従順な生涯を生きました。ヨナの中途半端な従順と違って、イエスは心から神に従ったのです！命を助けられたヨナとは違って、神の激しい怒りがイエスに注がれたのは、私たちが滅びることがないようにするためです。

イエスは、私たちの罪のため、神の怒りを収めるために、神の怒りの海に投げ込まれました。ヨナは魚の中で死にませんでした！ヨナとは異なり、イエスは私たちのために文字通り死を味わいました。イエスは、私たちが罪に対して死ぬことができるように、墓の中に埋葬されました。イエスは、私たちが受け取るべきでない命を受け取るために、ご自分が受けるべきでない死に方をされました。イエスの復活は、ヨナの復活よりはるかに偉大でした。

ヨナは海の墓から乾いた陸地に戻されました。イエスが死を打ち破り、よみがえられたので、私たちは私たちにふさわしくないよみがえりを受け取ることができるのです。

神の恵みは、私たちが真の悔い改めに導きます。

パウロはローマ書2:4でこう言っています。2:4、「それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないのですか。」

神の優しさと恵みを味わえば味わうほど、あなたは従いたくなるはずです。ですから、真の悔い改めがあるところには、神の恵みが働いているのです。神の恵みが及ばない罪人はいないのです。私たちの中にある罪よりも、神の中にある憐れみの方が多いのです。神は東京の町を愛しておられます。人々を憐れんでおられます。神の憐れみと恵みが及ばないほど暗い街はないのです。ヨナより偉大な人が今日ここにいるのです。イエスはヨナよりも偉大で、審判の日に私たちの目の前に立つ方です。では、今日私たちはどのように応答するべきでしょうか？

私たちは、表面的な優しさを悔い改め、周りの人を「愛する」必要があるのです。あなたを不快にさせ、イライラさせ、腹立たしくさせる、愛しにくい人たちは誰ですか？

ヨナはニネベが神の憐れみを受けたことを喜びませんでした。(来週見ます) 彼は、神がイスラエルの敵にあわれみを示されたことを怒っていたのです。暴力的な街、ニネベがヨナの説教で悔い改めたのなら、ヨナより偉大な方がここにおられます！イエスのメッセージ、人生、死、そして復活はヨナよりもはるかに偉大なのです。そして、イエスは私たちに、行って弟子を作るように命じられました(マタイ28:19)。「国々」はこの街にいるのです。

質問:あなたの家庭、隣人、職場で、イエスがあなたに手を差し伸べてほしいと願っているのは誰ですか？

ヨナよりも偉大な方がここにおられます！あなたがすることは聞くこと、祈ること、話すことで、救いを行うのはイエスです！

今週、外に出て行き、イエスが私たちに与えてくださった同じ恵みを広げていきましょう！